

平成27年度市民活動支援センター  
市民活動に関するアンケート調査結果報告書  
【団体編】

平成28年6月

調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター

市民活動支援センターは、平成17年2月に開設以来「自立した市民社会の創造」をミッションに市民が自ら主体的に社会参加し、市民活動を行う「市民が主役のまちづくり」を目指し、多様な市民活動を支援する拠点として、様々な取組を行ってきた。

平成24年に策定した「市民活動支援センター中長期運営方針（ビジョン）」では、一人ひとりの市民が責任をもって発言し行動する「自立した市民」による多様な活動の展開が、調布のまちを豊かにし、課題解決に向かって市民自らが関わってまちを創造していくという考えのもと、市民参加をバックアップする視点で「人づくり」と「横のつながりづくり」を進めていくことが重要と位置付け、その実現に向けセンター事業を中長期活動計画の形で整理し、個々の活動に取り組んでいる。

調布市では、調布市基本構想に掲げたまちづくりの実践にあたっての3つの基本的な柱（「市民が主役のまちづくり」「市民のための市役所づくり」「計画的な行政の推進」）として、「行革プラン2015」を策定し、施策を推進している。

同プランでは、「参加と協働のまちづくり」の推進にあたり、「参加と協働の推進のための環境整備」の1つとして、「市民活動・地域コミュニティ活動を促進するための支援の充実」に向け「市民活動支援センター機能の充実等」を取組に挙げている。

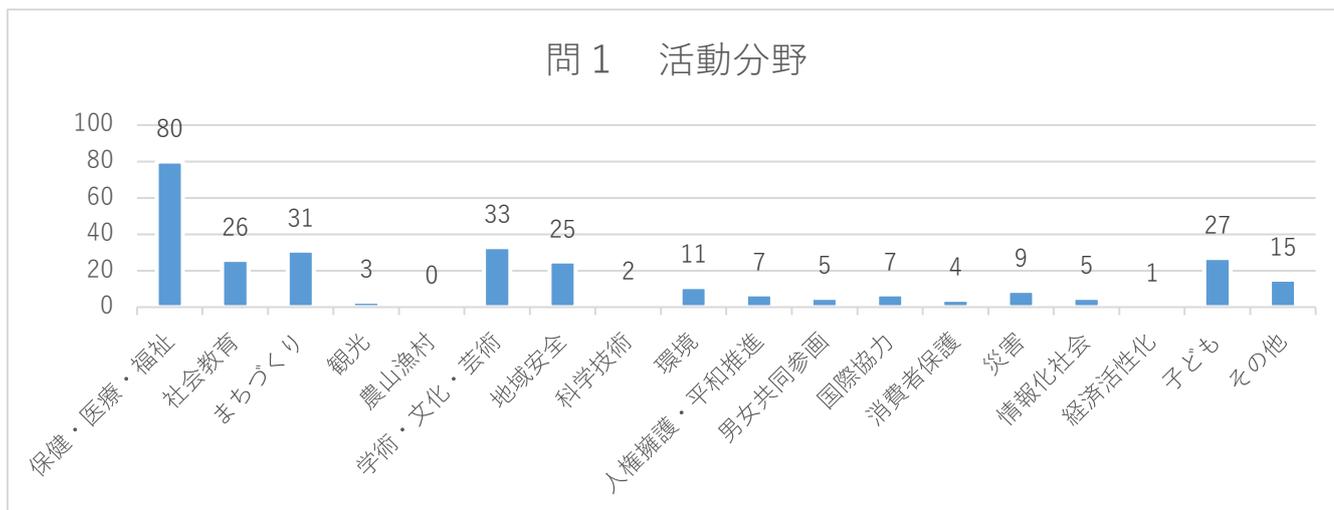
市民活動支援センターが、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくうえで、市民活動団体の活動状況や経年変化、センターへの期待等を把握し、センターの取組に生かしていくことを目的に、平成27年8月に「市民活動に関するアンケート調査【団体編】」を実施した。

## II 調査の概要

期間	平成27年8月1日～8月31日
対象	① 市民活動支援センターホームページに情報登録している市民活動団体 ② 市内に事務所を有するNPO法人、一般社団法人、公益社団法人、一般財団法人、公益財団法人 ③ その他、市内で公益的かつ非営利の活動を行う市民活動団体 上記①～③のうち、本調査事業の趣旨に賛同し調査協力する団体
手法	郵送若しくは窓口配布、当センターホームページフォームによるアンケート調査
有効回答数	188（任意団体144、NPO法人27、一般社団法人8、公益社団法人1、一般財団法人2、公益財団法人3、その他3）
内容（項目）	活動分野、活動満足度、組織形態、経過年数、会員数、平均年齢、事務局有無、ボランティアニーズ、活動予算、活動頻度、活動地域、活動資金、広報、協働経験、将来イメージ、市民活動支援センター利用状況、市民活動支援センターに求める機能、市民活動支援センター広報への意見、ランチ認知度、コーディネーターへの期待他

## III 回答結果

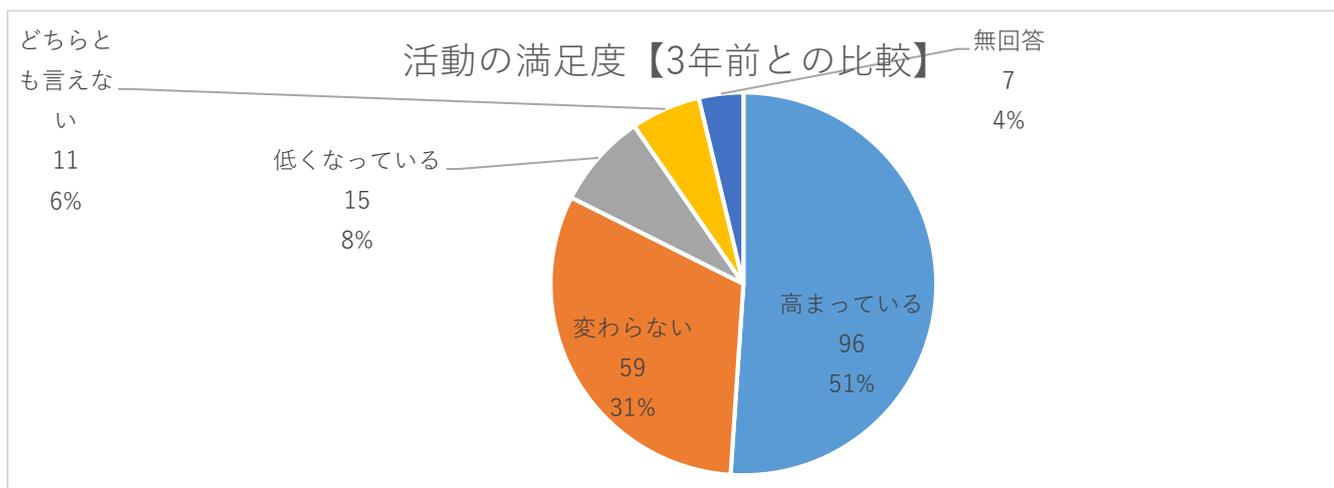
問1 活動分野についておたずねします。(特定非営利活動促進法の区分を参考に記載しています。貴団体の活動分野として近いものをお選びください。)[複数回答可]



問1-2 貴団体の活動目的について教えてください。[自由記述]

別表参照

問1-3 【活動の満足度【3年前との比較】】

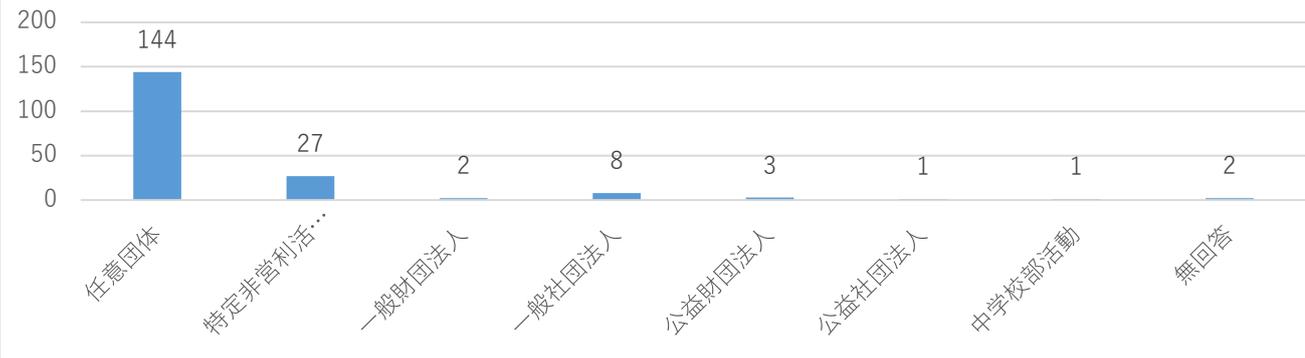


■「満足度が低くなっている」と回答した団体 15 団体について

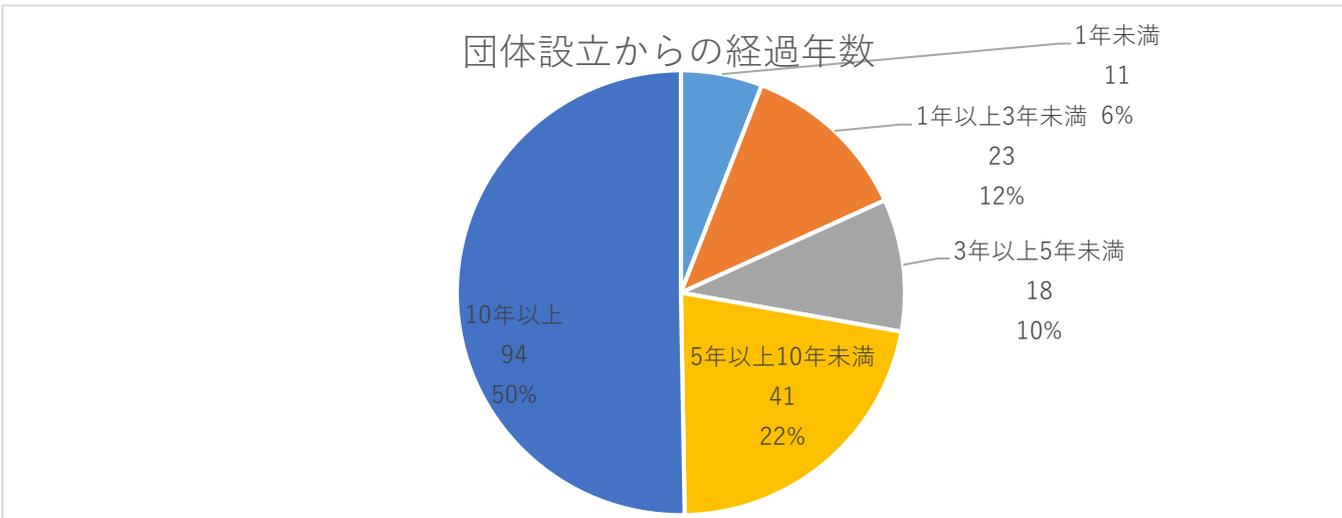
- ・「活動の満足度」と「会員数」の関係、8 団体が「少し減少した」、4 団体が「大幅に減少した」と回答。
- ・「活動の満足度」と「活動年数」の関係、15 団体中、8 団体が「10 年以上」、4 団体が「5 年以上 10 年未満」、1 団体が「3 年以上 5 年未満」、2 団体が「1 年以上 3 年未満」と回答。
- ・15 団体中、6 団体が「ボランティアを必要としている」と回答。
- ・団体メンバーの平均年齢は 20 代～80 代まで幅広いが、50 代が 4 団体と最も多い。
- ・活動分野は 4 団体が「保健・医療・福祉」、3 団体が「学術・文化・芸術」と回答。
- ・組織形態は「任意団体」が 10 団体、「公益財団法人」2 団体、「一般社団法人」2 団体、「NPO 法人」1 団体
- ・15 団体中 10 団体が 3 年前との比較で活動資金が「減少している」と回答。

問2 組織形態についておたずねします。

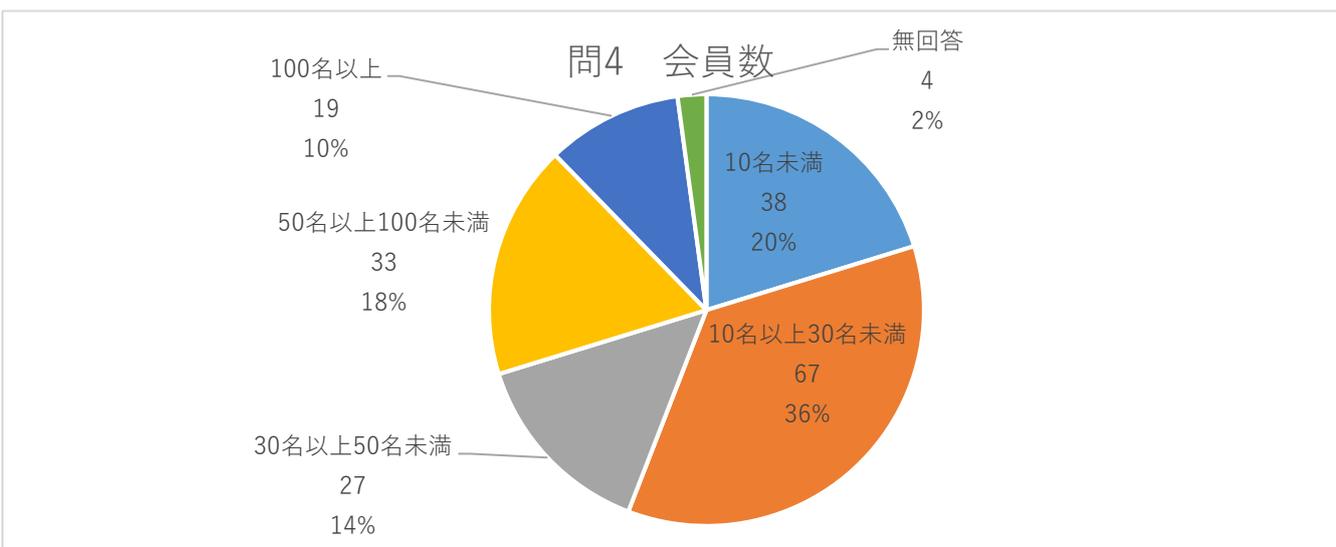
## 問2 組織形態別団体数



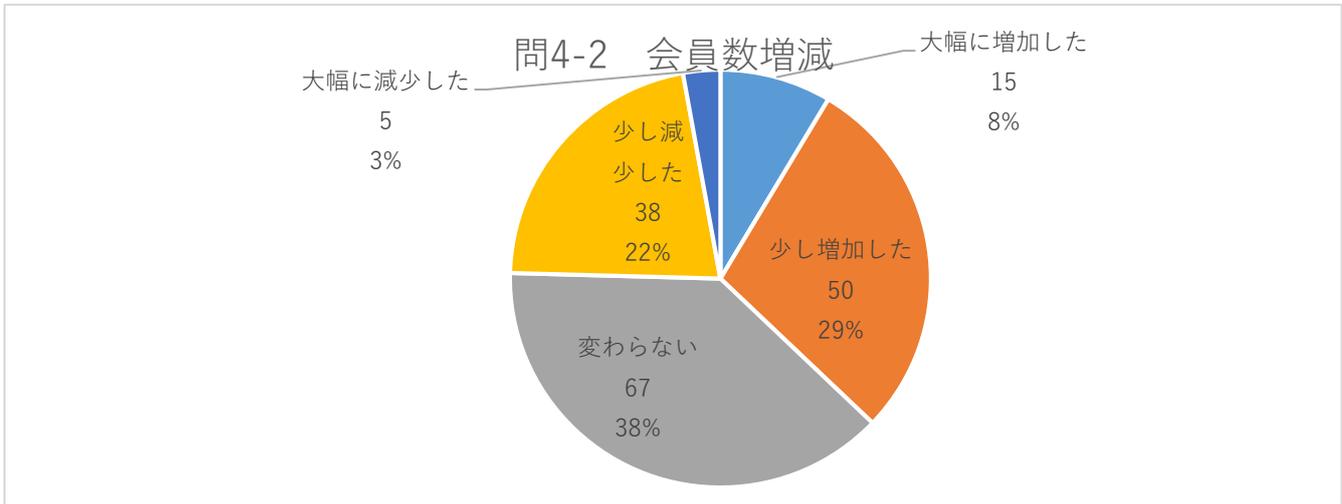
## 問3 団体設立（活動開始時）からの経過年数についておたずねします。



## 問4 会員数についておたずねします。



## 問4-2 【会員の増減 [3年前との比較]】



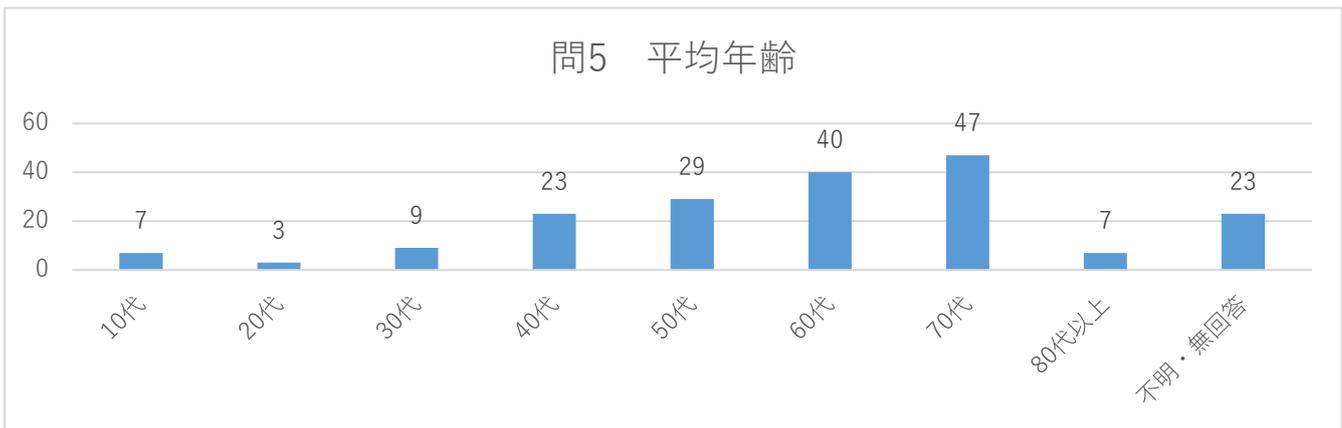
■ 会員の増減と活動年数の関係

- ・「少し減少した」と回答した38団体のうち、24団体が「10年以上」、8団体が「5-10年未満」

■ 会員の増減と活動分野の関係

- ・「少し減少した」と回答した38団体のうち、「保健・医療・福祉」が20団体（「大幅に減少した」は0）

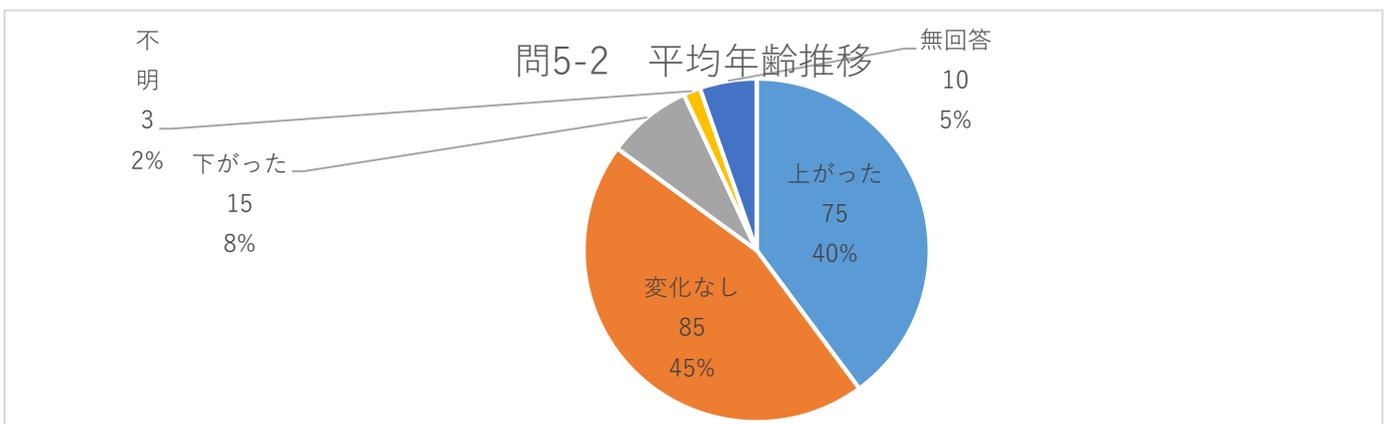
問5 会員の平均年齢についておたずねします。



■ 平均年齢70代の団体は、全て任意団体。老人クラブやサロン活動が多い。

■ 平均年齢60代の団体も、任意団体が大半。法人格のある団体はNPO法人3・一般社団1の計4団体。活動内容は多岐にわたる。

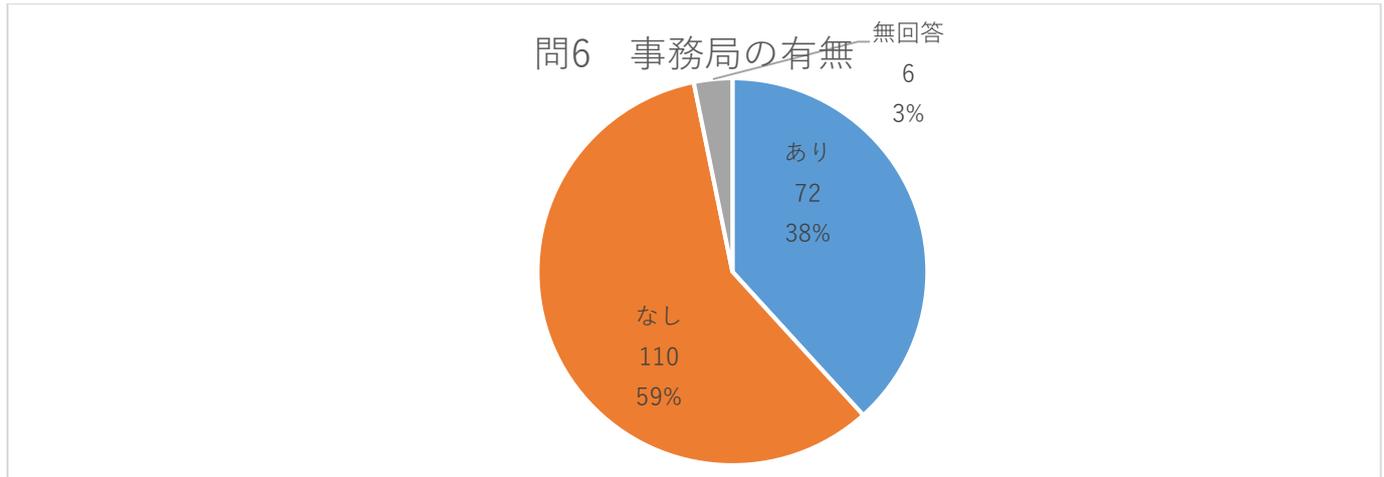
問5-2 【平均年齢の推移 [3年前との比較]】



■ 「平均年齢」と「活動分野」

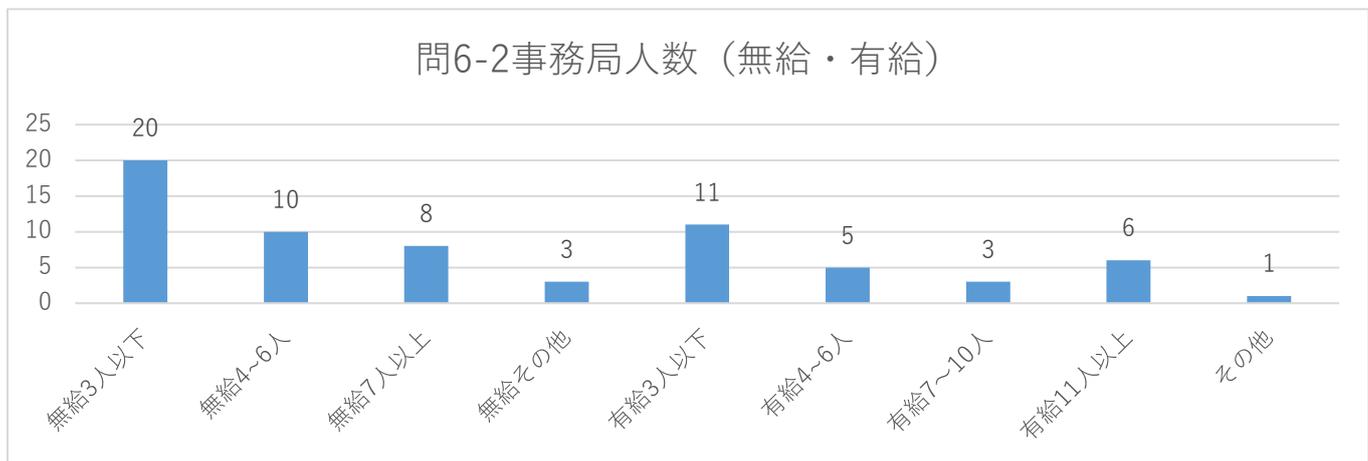
- ・「保健・医療・福祉」が34団体と最も多く、次いで「学術・文化・芸術」19団体の順となっている。

問6 事務局スタッフの有無についておたずねします。(有給・無給問わず)



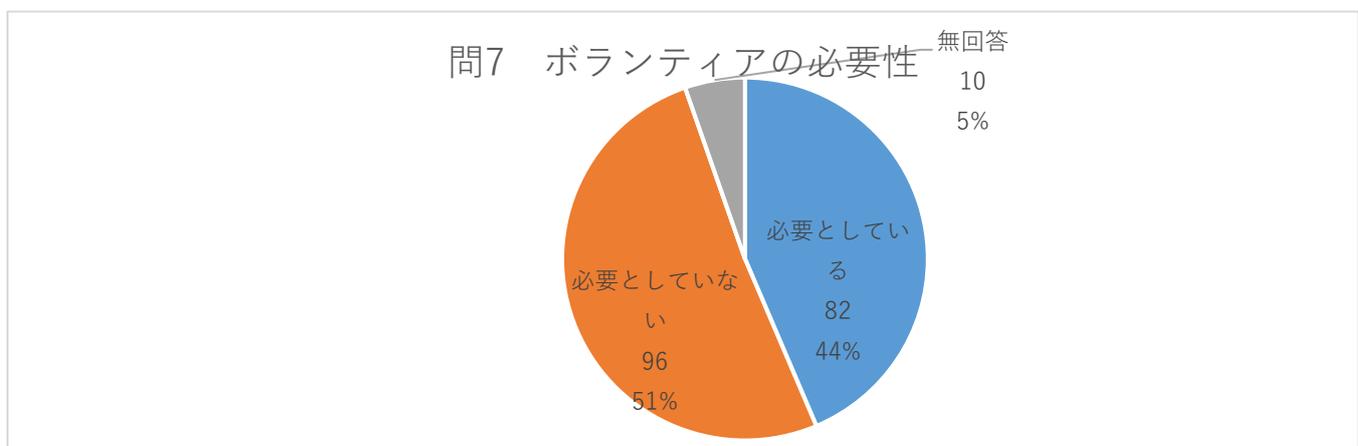
■事務局「あり」72 団体中 34 団体が「保健・医療・福祉」分野。次いで「学術・文化・芸術」12 団体の順。

問6-2 「あり」を選択した方は有給・無給の人数をお答えください。



■有給の事務局がいる団体は 24 団体。組織別内訳は NPO 法人が 14、一般社団法人が 4、一般財団法人が 2、公益社団法人と公益財団法人が共に 1、任意団体が 2 となっている。福祉サービス系の団体が多い。

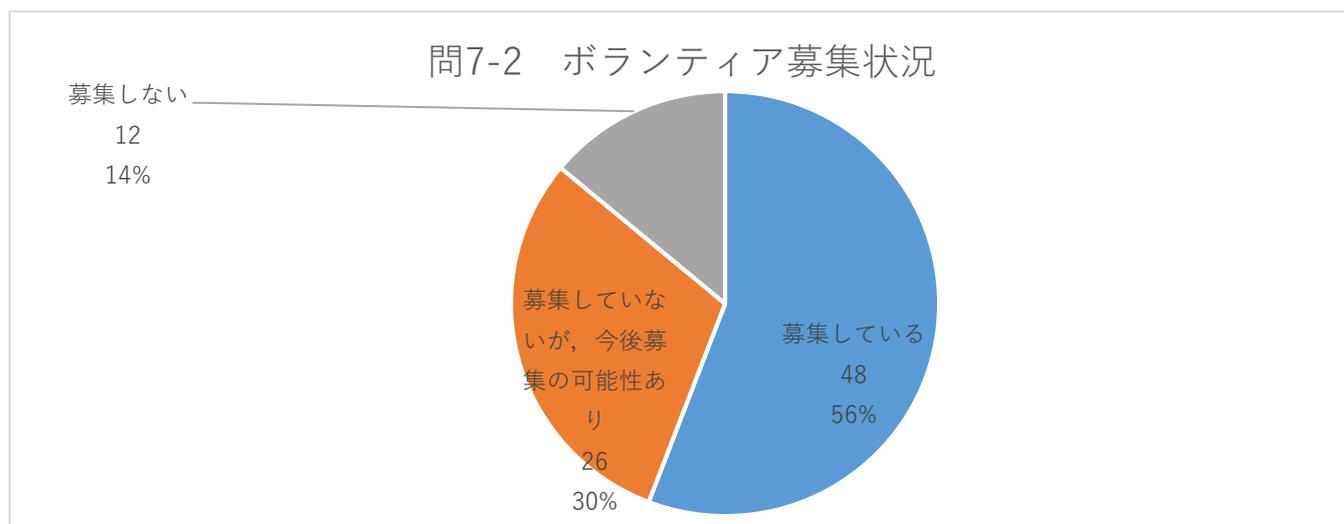
問7 貴団体ではボランティアを必要としていますか。



■「ボランティアの必要性」と「活動分野」

・「必要としている」と回答した 82 団体のうち、「保健・医療・福祉」41 団体、「学術・文化・芸術」15 団体、「まちづくり」11 団体、「環境」8 団体、「災害」5 団体等多くの分野でボランティアを必要としている。

問 7-2 【ボランティア募集状況】 問 7 で「必要としている」と回答した団体(82 団体)におたずねします。貴団体では現在、ボランティアを募集していますか。



問 7-3 【ボランティア活動内容】 問 7-2 で「募集している」と回答した団体におたずねします。どのようなボランティアを募集していますか。

別紙参照

■えんがわだよりや当センターホームページでボランティア募集情報を発信したことのない団体も散見される。

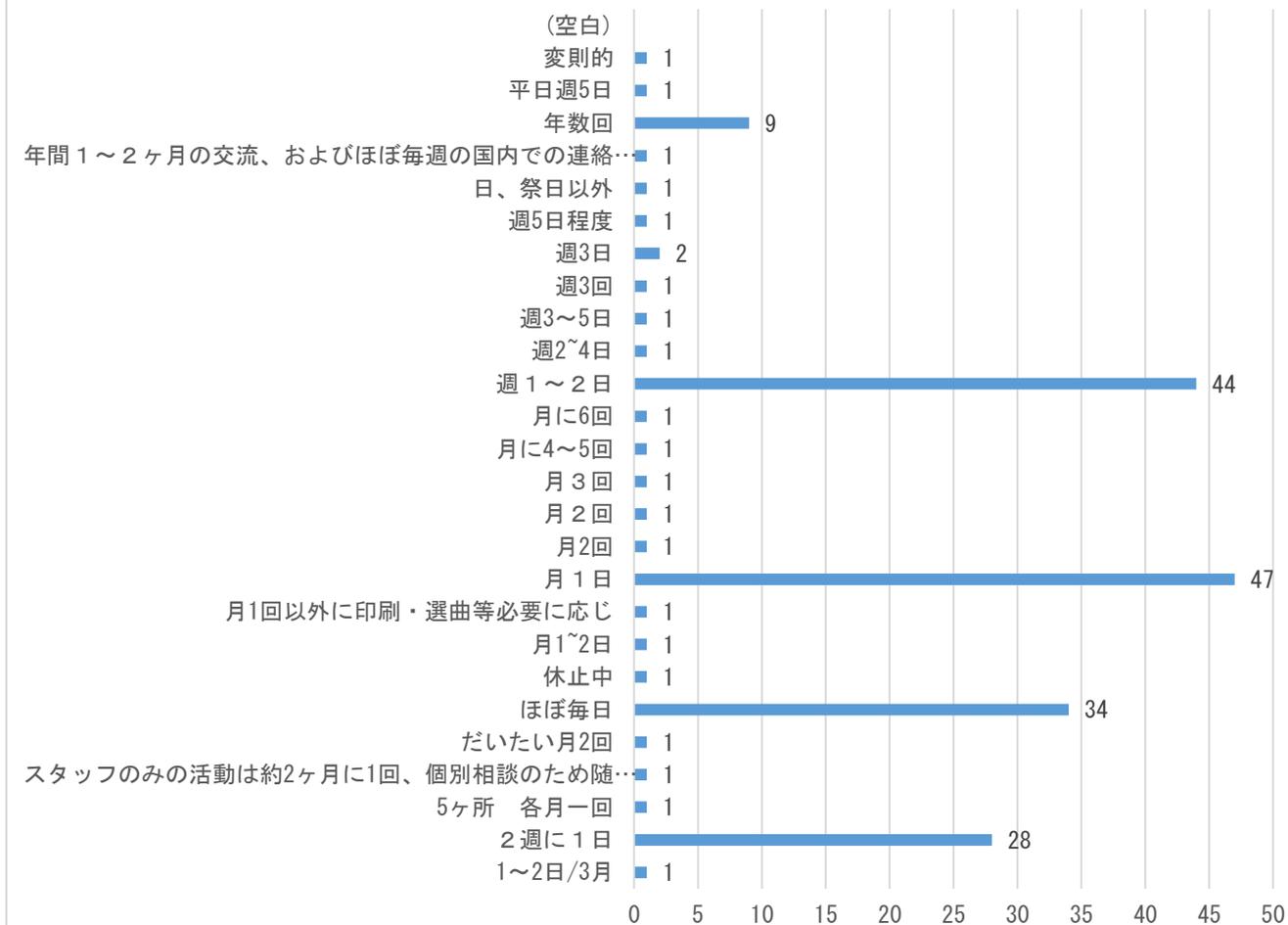
問 7-4 【ボランティアを必要としていない理由】 問 7 で「必要としていない」と回答した団体におたずねします。「必要としていない」理由をお聞かせください。[自由記述]

別紙参照

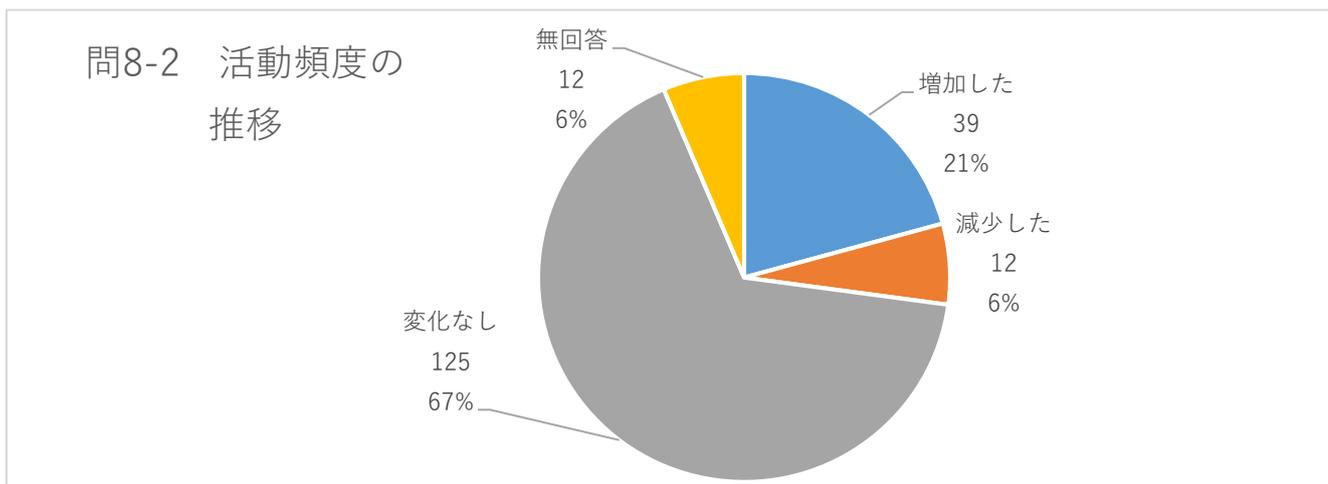
■「メンバーが充足している」という回答が最も多いが、「団体発足間もないため」「活動内容が誰でもできるものではないため」との回答もあることから、こうした団体へのボランティアコーディネートに取り組む必要がある。

問 8 団体の活動頻度についておたずねします。

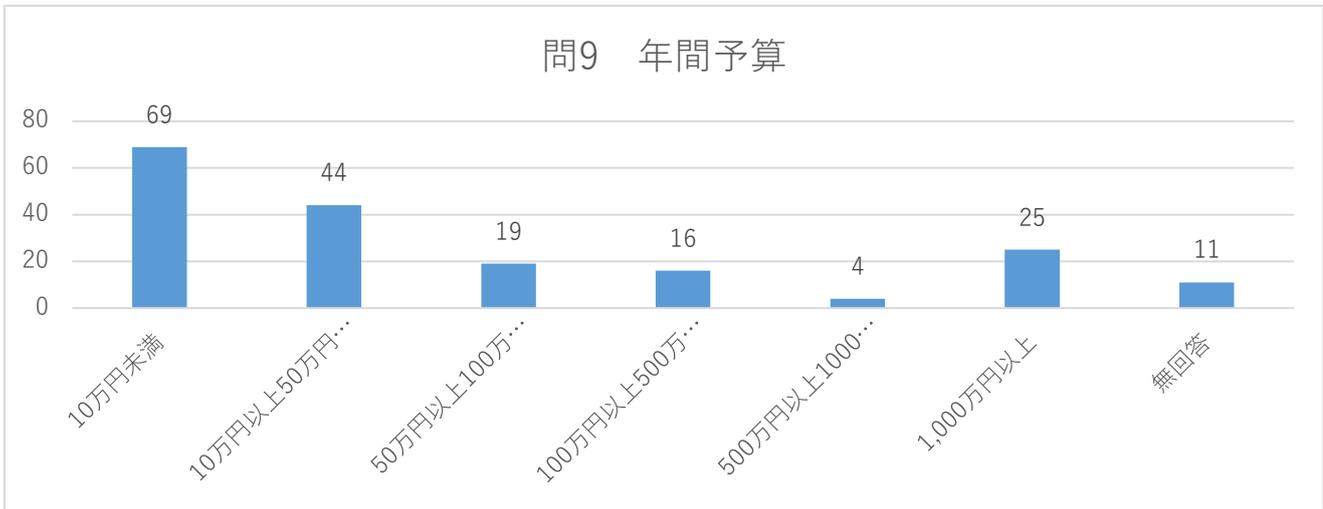
## 問8 活動頻度



### 問8-2 【頻度の推移 [3年前との比較]】

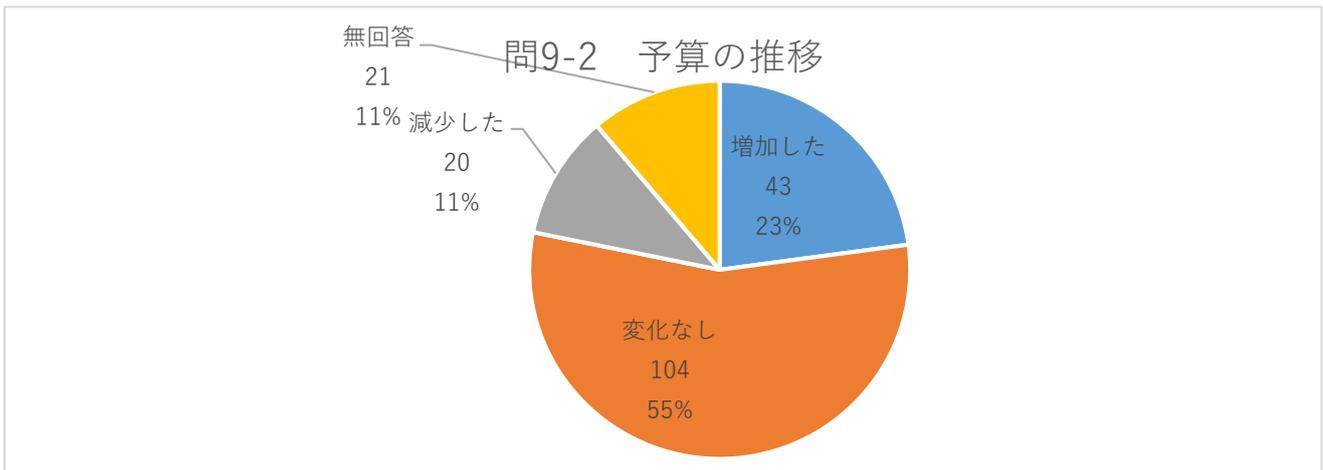


問9 団体の年間予算（平成27年度）についておたずねします。

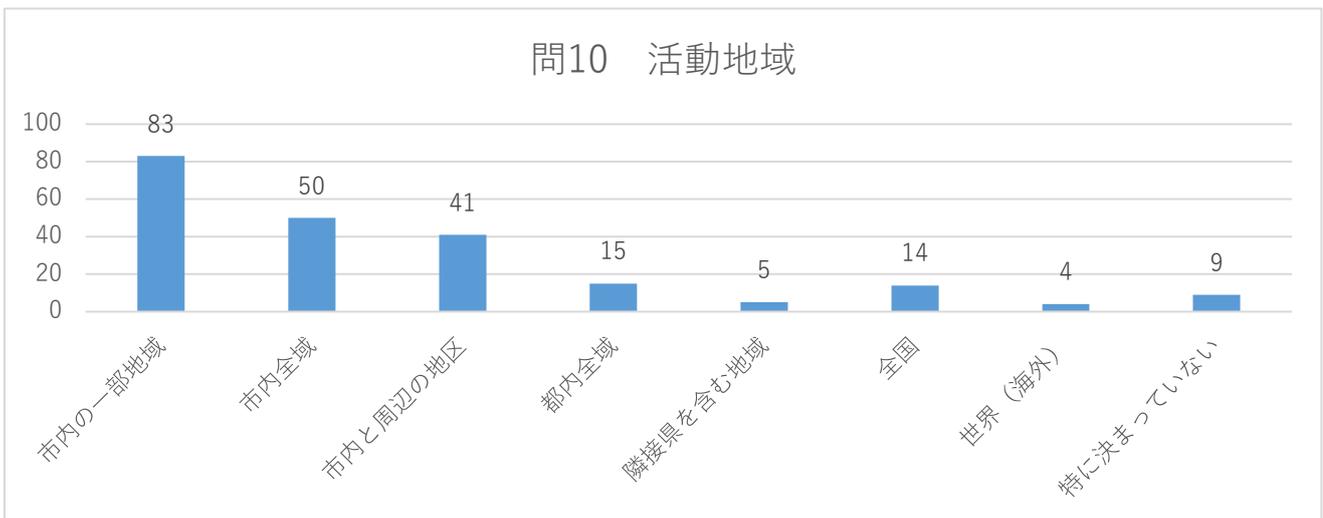


■平成 22 年度に実施した「市民活動支援に関するアンケート調査：団体編」では、年間予算 1000 万円以上の団体が 123 団体中 6 団体だったが、今回は 188 団体中 25 団体（13.3%）と増加している。25 団体中、団体設立から 5 年未満の団体が 5 団体あり。前回の調査に参加されていない団体（一般社団法人・一般財団法人・公益社団法人・公益財団法人）からの回答が今回含まれていることから、その点も勘案して捉える必要あり。

#### 問 9-2 【予算の推移 [3 年前との比較]】

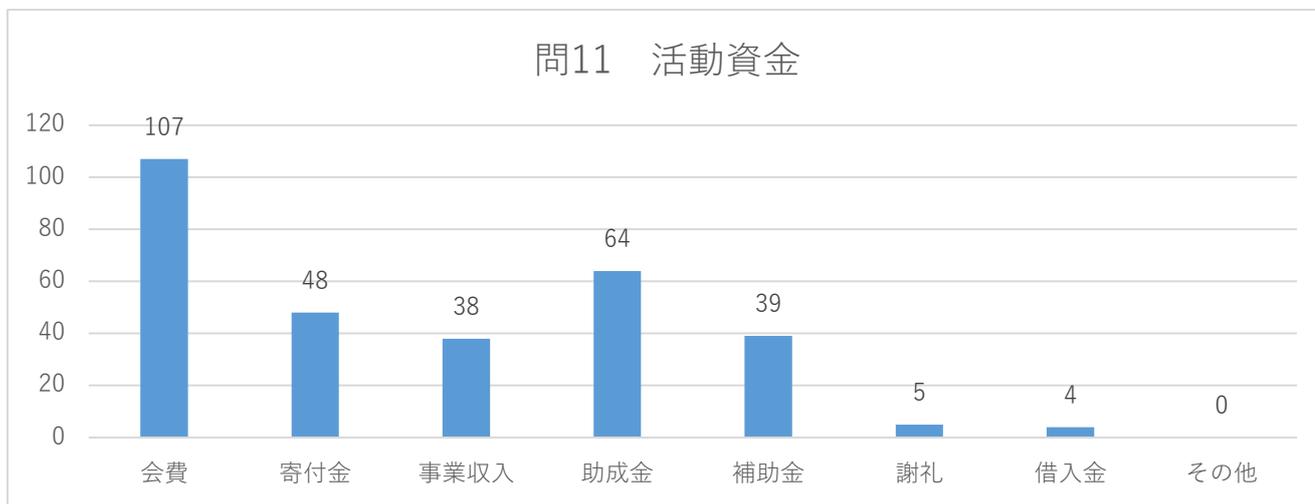


#### 問 10 団体の活動地域についておたずねします。[複数回答可]



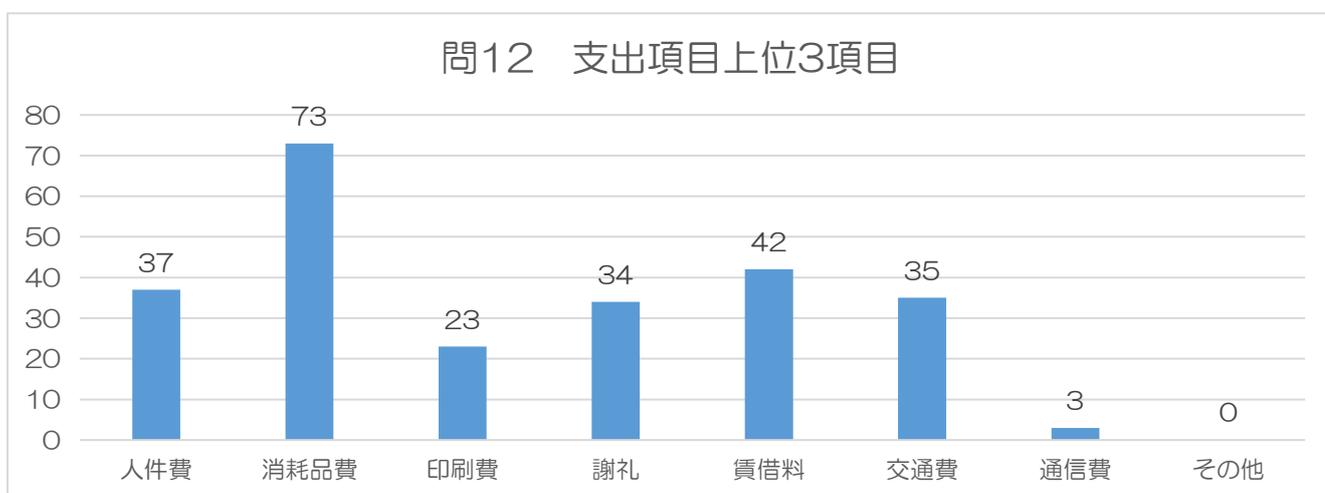
#### 問 11 団体の活動資金（前年度決算）の種類についておたずねします。[複数回答可]

### 問11 活動資金

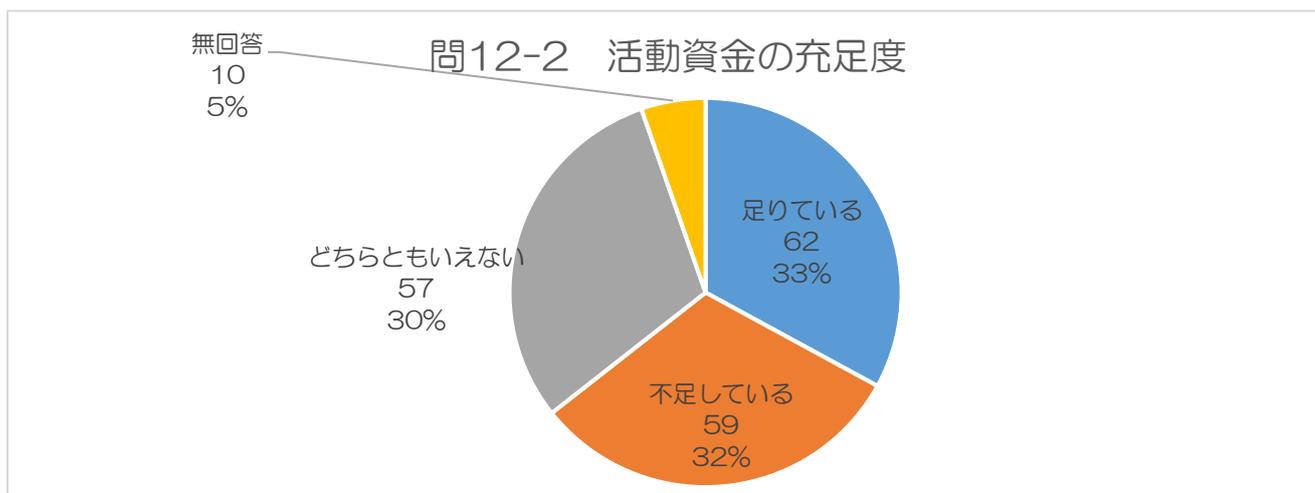


問 12 団体の主な支出項目についておたずねします。上位 3 項目をお選びください。

### 問12 支出項目上位3項目

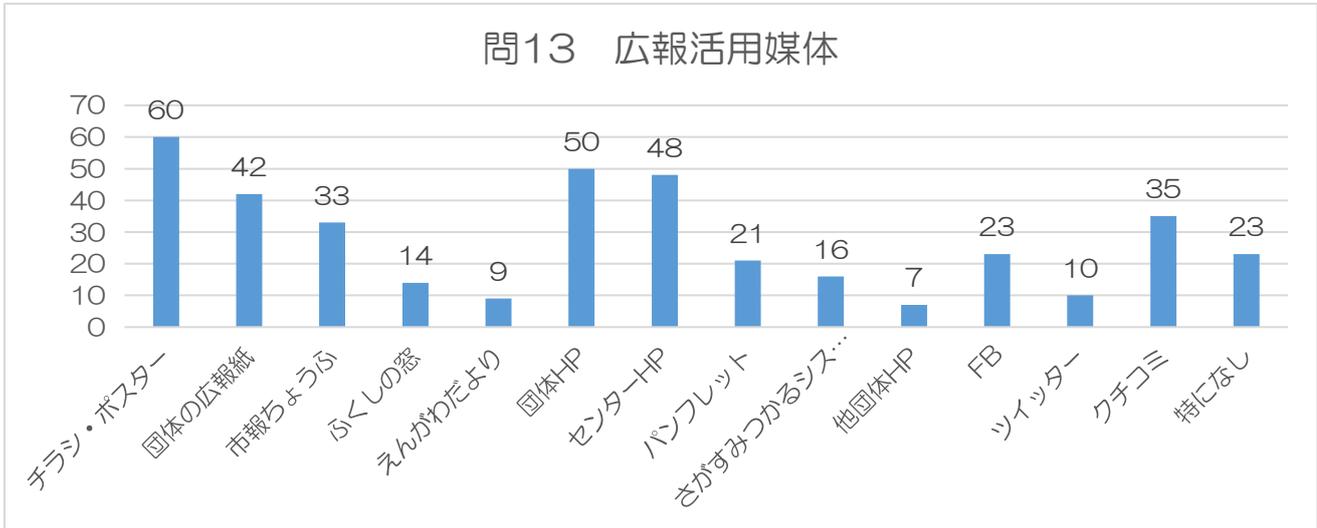


問 12-2 【活動資金の充足度】

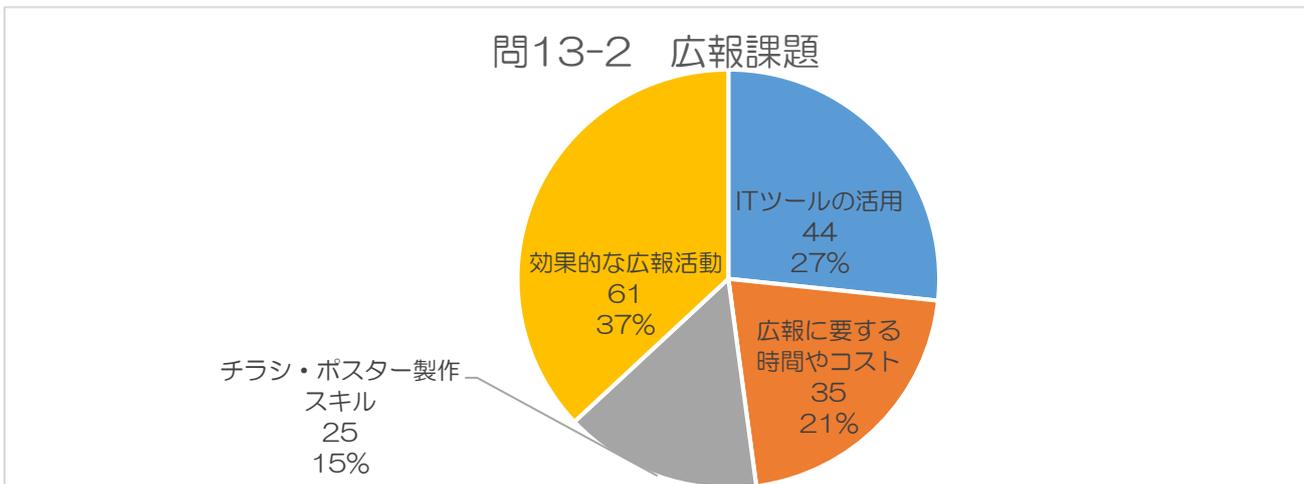


問 13 団体の広報についておたずねします。どのような方法で広報していますか。[複数回答可]

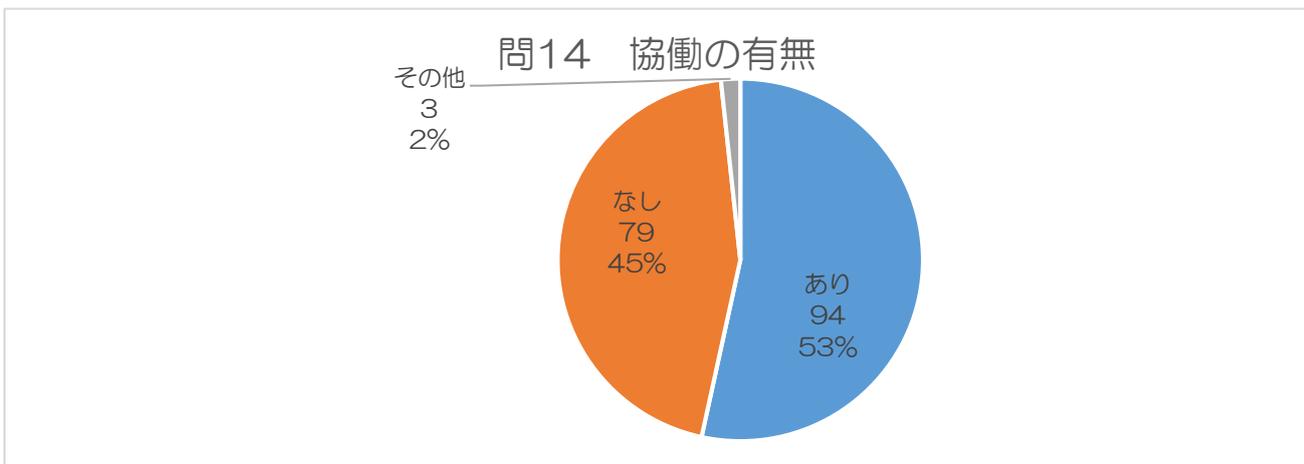
### 問13 広報活用媒体



### 問 13-2 【広報に関する課題】[複数回答可]



### 問 14 これまで行政や他機関、企業、団体と協働の経験はありますか。

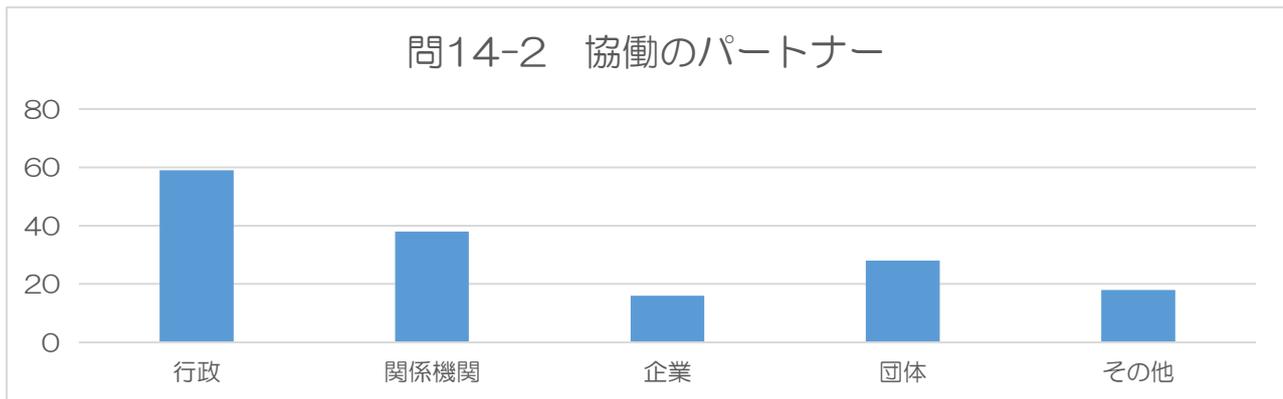


#### ■平成19年度に実施した協働に関する調査との比較

・平成19年度の調査では、これまで行政と協働した経験のある団体は全体の64%（29団体）と割合で比較すると11%減となっている。平成19年度の調査対象団体74団体のうち、NPO法人が43団体と今回の調査で回答したNPO法人数（27法人）を上回っていること、全体に占める法人格を有する団体の割合が今回より高いことも要因の一つとして考えられる。今回の調査で「あり」と回答した任意団体が63団体と任意団体全体の4

割を超えていることから、法人格の有無にかかわらず協働経験が増えていることが推察される。

問14-2【「あり」と答えた団体の方へ】どのようなパートナーと協働しましたか。[複数回答可]



問15 「将来こんな活動をしていきたい」「こんな団体になりたい」「こんな地域や社会にしたい」等貴団体の将来のイメージがありましたらお書きください。[自由記述]

別紙参照

問16 貴団体が日頃から感じている調布のまちや身近な地域の課題、団体運営上の課題等がありましたらお書きください。[自由記述]

別紙参照

【団体運営上の課題】

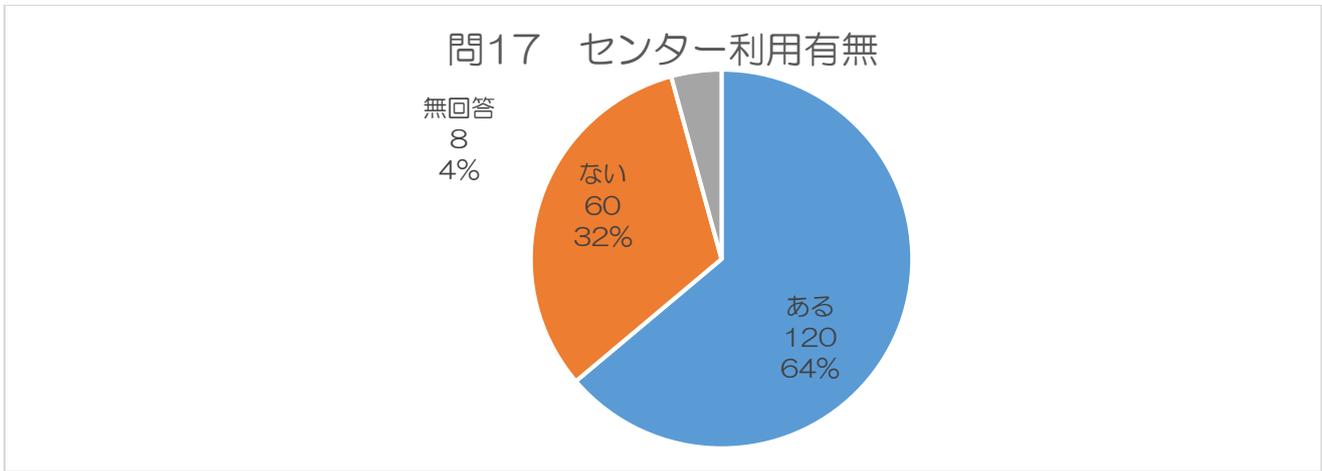
- ・メンバー間の情報共有、連絡調整
- ・団体の規模拡大、活動の進化による高度な運営
- ・活動場所の手狭さ→他の場所の確保が難しい。
- ・老人会運営の継続が厳しい（行政の補助金関連の会計監査の厳しさ他）、老人クラブにあった会計処理制度への改善希望
- ・行政各部署との気軽な情報交換が日常的にできるのが好ましい。その延長線上で「協働」できる、多岐にわたる仕組みがあるのが望ましい。
- ・若い人材不足
- ・行政とのつながりが弱い
- ・会員不足、特にコアメンバーをどう増やすか。
- ・行政、学校、自治会、商店街との連携が出来ない。
- ・ホームページを作る財源がない。
- ・歌集やスピーカー、ポスター等を保管しておく場所がなく困っている。有料でもいいので使い勝手のよいロッカーがあると助かる。
- ・市内他団体とのコラボレーションの機会不足
- ・国際交流センターに声をかけたが、たづくりでの報告会をちょっとのそきに来ることさえしていただけなかった。活動が海外だからでしょうか。
- ・拠点の確保、資金づくり
- ・メンバー、スキル、資金不足
- ・ふれあい教室の使用はありがたいが、もう少しゆるやかに利用をさせていただくと嬉しい。
- ・色々なサービスや団体があり、随分充実しているように感じているが、依然として、そこへつながらない方々の存在を感じる。つながっていない方々（一時的にの場合も）にどのように当会の活動（他団体も）を知っていただき、活用いただく動機づけをしていけるかが課題
- ・事業実施のための会場確保が困難なために、目的のための事業展開が制限されている。また、特に3月11日を事業日としているが、市の事業で利用できないことが課題
- ・団体としては高齢なので、次代をつなぐ人をどうみつけていくか。
- ・資金が乏しく、活動実績が少ないせいか、行政等の協力体制が厳しく思える。資金調達から始まり、資機材の購入。そして、その資機材を扱える人材と訓練があって初めて活動できる内容であるため、一つ一つクリアしていかななくてはならない。
- ・年1回、地域の皆さまとの文化交流の場として、手づくり市を開いている。車いすの人も出入りできるおし

やれな展示場がほしい。

【地域や社会の課題】

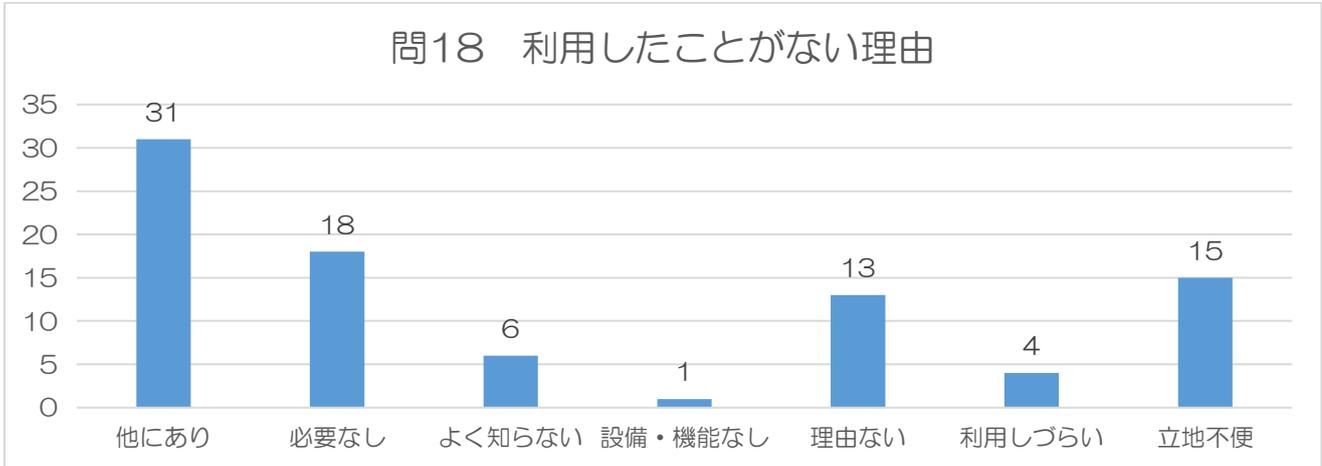
- ・震災を忘れない。
- ・放置自転車、看板、道路の凸凹等、障がいのある人にとって危険な箇所が多い。
- ・市が大変福祉に理解があり住みやすい。しかし障がいのある人が過ごす場所を探すとすると、反対運動があったりと、地域住民の理解が十分でないとも感じる。
- ・こころの病に対する理解がまだまだ不十分であると思う。
- ・活動する（障がい者）場所がない。特に体を動かし、当事者本人が活動する場所がほしい。
- ・だんだん聞こえにくくなると行けるところがありません。体操教室はいっぱいあっても、先生の話が分からないとつまらないので参加したくないのです。難聴者の立場は行政から忘れられていると思う。ですから難聴者のためにも予算が欲しい。
- ・福祉都市の宣言をしている市にふさわしいサービスができていない。
- ・普段、地域の中で子どもの姿が見えづらくなっている。高齢者が道で声をかけても無視される。
- ・高齢者は増えているのに老人クラブの会員は減少している。PR不足だと思っている。
- ・菊野台地域福祉センターまでの交通手段がタクシーを利用するしかない。ミニバスの新設もしくはコース変更を希望
- ・過去に要支援にもならず、地域包括支援センターから紹介されて活動に参加された方がいましたが、結局長続きせず「どうなったのかな？」と心配になったケースがあった。年に一度地域包括支援センターの方が活動に来る機会は必要だと思う。
- ・緑の多い調布の自然を守ること
- ・野川に生活ごみを捨てる人がいて困っている。
- ・エネルギーに対する関心の低さ、まちの未来に対する関心の低さ
- ・シニアの方たち(特に男性)が調布のまちに出て来て活躍出来るようにしたい。
- ・核家族になり、地域のこどもから、大人まで関わりが稀薄になっている。
- ・家庭で使用済み油の活用（石けんを作る等）について、市で取り組んでいただけるといいのに・・・との声がよく出る。
- ・夜11時くらいまで会合できる会議室がほしい。
- ・活動場所を増やしてほしい。
- ・地域にもっと広い集会スペース（100人くらいの定員）があると良い。
- ・調布でプールのコースを借りられる場所は調布体育館と調和小ですが、調和小は設備の不備が多い。障がい者にとって必要な駐車場が少ない。ほとんど使えない。また体育館では、借りるコースの時間帯が変則。しかも7月は夜しか借りられない。小学生もいるので、7月も何とか夕方時間でもいいので、開放してほしい。
- ・市営等の柔道場がない。
- ・学生は地域に参加することを望んでいる。近くの店からアルバイトの要請がある。オープンセミナーを開いて講演を実施しており、近くの住人も参加いただいている。
- ・住民の何事にも無関心
- ・学校における外部人材の活用、様々な制約があり、創造的な企画が難しい。
- ・音楽がまちに少ない、様々なところで取り入れる工夫をしてほしい。
- ・空き教室の有効活用
- ・1歩踏みこんだ協働。顔つなぎのネットワークを越えて、お互いもっと協力しあえばいい。
- ・ゲームをする子どもが多いので、身体を動かして遊ぶ遊びを教えたり、場があればいいと感じる。
- ・市民プラザあくろすをよく利用していたが、最寄駅には各駅しか止まらないのが不便。調布駅から無料バスを出していただくと出していただくと助かる。
- ・人生の大先輩の方々が、いろいろな場面で活躍、頑張ってくださいっているのに、若い世代のボランティア意識が低く課題である。
- ・マンションが多くなり地域の自治会等に入会しないマンションが多く、市の方から募金等年4回参加できるように働きかけしてほしい。

問17 市民活動支援センター（以下、「センター」）を利用したことがありますか。



■平成22年度の「市民活動支援に関するアンケート調査」との比較  
 ・前回調査では「利用あり」と回答した団体の割合が57.4%と、今回の調査結果の方が6.3%高い。

問18 【問17で「利用したことがない」と答えた団体の方へ】その理由についてお聞かせください。[複数回答可]



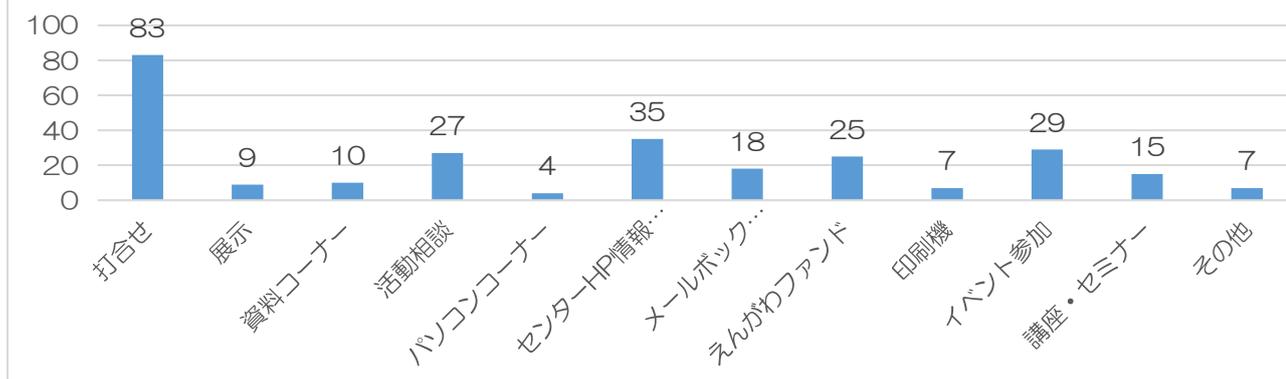
問18-2 【問18で「他に活動場所がある」と答えた団体の方へ】主に活用される施設を選択してください。[複数回答可]

別紙参照

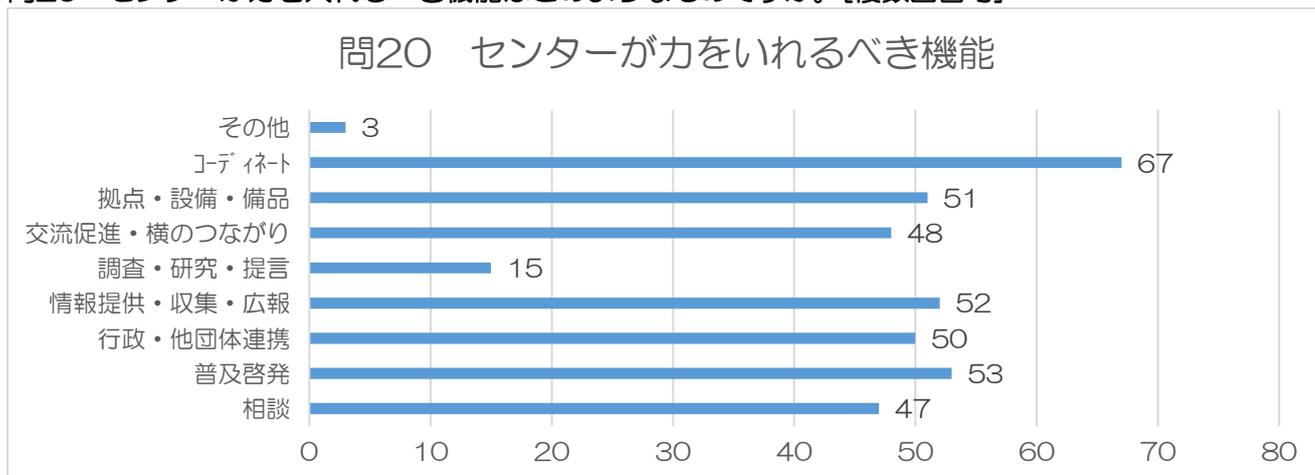
■地域福祉センターが最も多く、文化会館たづくり、公民館など他の公共施設が大半。少数ではあるが、大学や自宅等の回答もあり。

問19 【問17で「利用したことがある」と答えた団体の方へ】どのような目的で利用しましたか。[複数回答可]

## 問19 利用目的



## 問20 センターが力を入れるべき機能はどのようなものですか。[複数回答可]



### ■平成22年度の「市民活動支援に関するアンケート調査」との比較

・前は「情報に関する支援」が42団体（32.3%）と最も高く、次いで「コーディネートに関する支援」37団体（29.1%）、「活動場所や備品提供に関する支援」35団体（29.1%）の結果だったが、今回は「コーディネート」が67団体と最も多く、次いで「普及啓発」53団体、「情報提供・収集・広報」52団体、「拠点・設備・備品」が51団体と続いている。「普及啓発」の順位が上がっているのが前回と異なる傾向である。

## 問21 センターに取り組んでほしい事業企画のアイデアがありましたら、お聞かせください。[自由記述]

別紙参照

- 半年から1年近くかけての伴奏型支援
- 市民活動の経理処理、税務申告等の情報提供
- サークル・団体紹介
- 交流とか福祉ではなく面白いイベントには人が集まる。
- 障がい者スポーツの紹介と指導者の育成
- 公務員定年退職後の地域活動参加の取組
- 2020年に向けて市民のグローバル人材教育（行政・センターと協働希望）
- 子ども向けゲームプログラミング教室
- ボランティアまつり
- えんがわファンド利用拡大、行政や各種団体との連携に関する具体的提案
- 市民団体による政策提言のサポート
- 団体交流のできる発表会、NPO紹介イベント
- 障がい者水泳記録会
- ボランティアセンターとサテライト候補地選定確保と立上訓練、地域連携型防災連絡会
- 市民活動推進のための講座や勉強会などの開催（助成金講座ほか）
- 地域事業者とNPOのマッチングやNPOソーシャルビジネスのフェスタ。実際、地域においては市民活動も事業ももっと近づいた方が双方の発展につながる。市民活動や非営利のみにこだわりすぎず。
- ホームページ開設サポート
- 昔遊び講習会

■精神保健福祉に関する講座

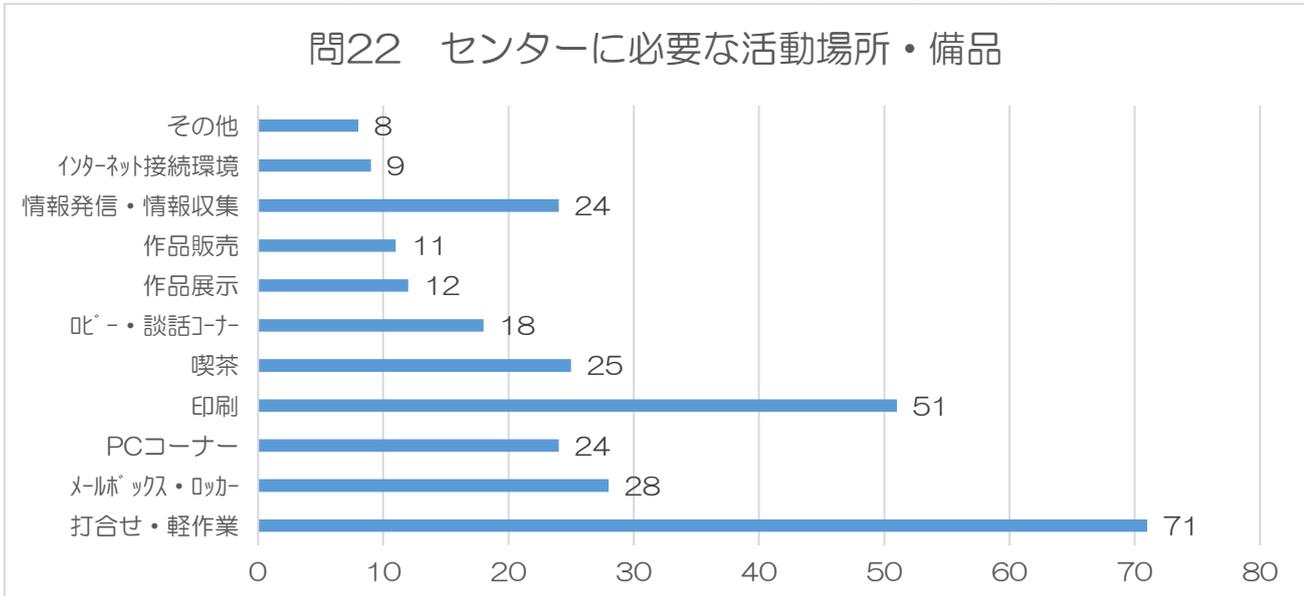
■軽作業用の備品貸し出し有料化「備品借り放題年間1,000円」ハサミ、のり、ラミネーター(←特に)、ペンなど(寄付もあり)。

■ジャンル別メールマガジン

■国領駅前整備後に駅前広場を活用したイベント開催

■都市農業&食をテーマにしたイベント、甲州街道や深大寺など歴史をテーマにしたもの、エコ地図作りなど、自然環境をテーマにしたもの

問22 センターに必要な活動場所や備品等はどのようなものですか。[複数回答可]



問23 市民活動支援センターでは、センターホームページ、広報紙「えんがわだより」、調布市社会福祉協議会広報紙「ふくしの窓」、市民活動団体リスト、市報や市のホームページ等を用いて市民活動に関する情報提供を行っています。各種広報媒体に関するご感想や掲載してほしい情報がありましたらお書きください。[自由記述]

別紙参照

■広報媒体全般に関する意見

- ・積極的に活動紹介をしてほしい。活動取材をしてほしい。
- ・メンバーやボランティア募集の情報発信
- ・いろいろな情報があってよい。
- ・情報の掲載方法をわかりやすく伝える必要あり。
- ・市民の要望と市民活動をつなぐコーナーがあるとよい。
- ・取材した情報や結果を団体の了承を得て公開してほしい。

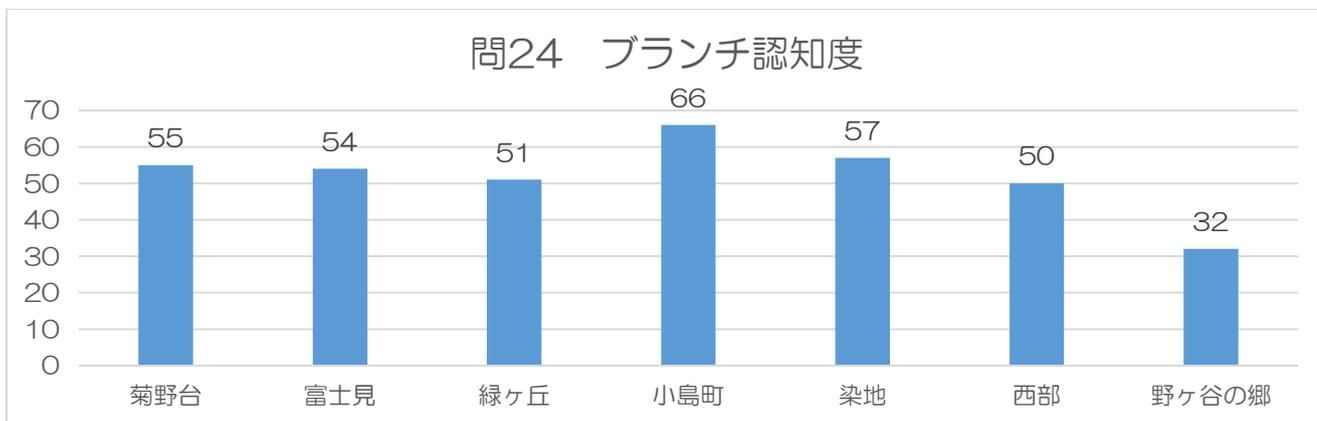
■ホームページに関する意見

・団体の情報発信ツールの1つとしてセンターホームページを活用している声が聞かれるが、発信者・受信者としてのさらなる使いやすさを求める声が複数寄せられている。

■えんがわだよりに関する意見

- ・特集記事が毎回あるのは読みごたえがある。

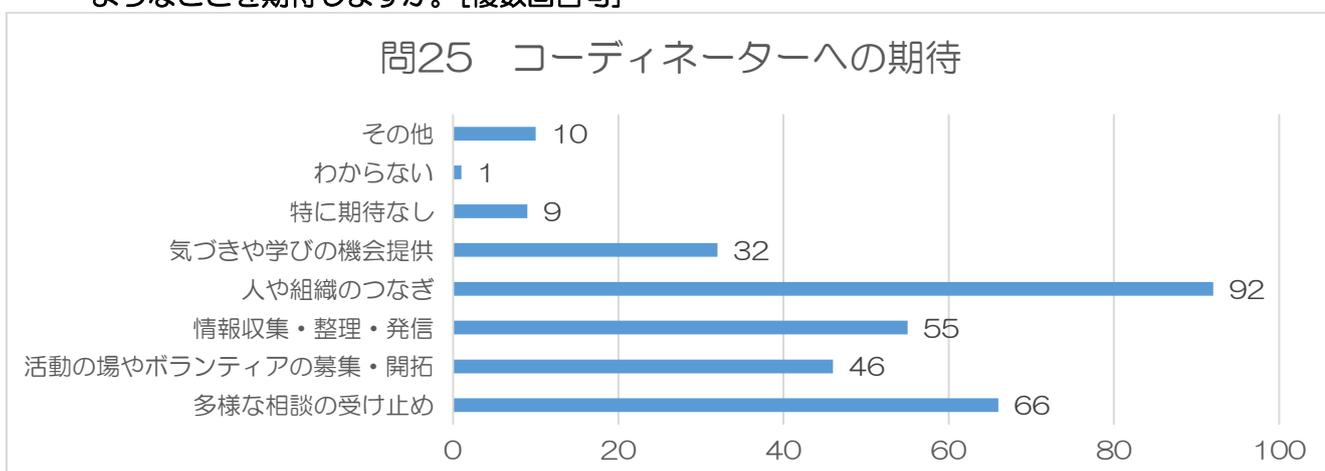
問24 以下のコーナー（プランチ）のうち、知っているコーナーに✓をつけてください。[複数回答可]



【調査結果個人編との比較】

・個人編よりも認知度は各コーナーとも高いものの、野ヶ谷の郷を除き、今回調査回答団体総数188団体のうち、25～35%の団体の認知度の結果となっている。今後、認知度を高める工夫の余地がある。

問25 各コーナーには市民活動を支援するコーディネーターが配置されていますが、コーディネーターにどのようなことを期待しますか。[複数回答可]



【調査結果個人編との比較】

・個人編では情報提供を期待する声が高かったが、団体編では「コーディネート」が最も高い結果となっている。

問26 市民活動支援センターは「まちながわになりたい」をコンセプトに人と人が集い、交流する場を目指し、地域で活躍する幅広い市民活動を支援する拠点として、みなさまの声を聞きながらこれからも様々な事業に取り組んでいきたいと思っております。市民活動支援センターや行政にご意見などありましたらお書きください。

【自由記述】

別紙参照（自由記述の内容を分類・整理したものを以下に記載）

【団体の状況・ニーズ把握及び支援への期待】

- ・活動している団体等を実際に見ていただき、机上の仕事だけで終わってほしくない。高齢化している人たちに何が必要か環境整備を考えてほしい。
- ・私達の活動を理解していただき、宣伝、及び会場費、ちらし代などの援助をしていただきたい。
- ・会員のうち常時活動する人（割合）が1/3強。この向上につなげていく方策・指導を期待。
- ・市内老人会の状況把握
- ・今後も継続して、小さな団体の活動にも支援をしていただけるようお願いしたい。
- ・障がい者水泳の大会にもぜひお越しください。そして持てる力を発揮するためにご協力をお願いしたい。
- ・私たちの活動は野川周辺。会議等は近くの地域福祉センターを利用しているので、あくろすまでは今の所考え

ていなかった。今、野川の桜の保存のことで動いているがこれからであり、そちらへも出向くことがあるかもしれない。その時はよろしくご指導をお願いしたい。

- ・センターのイベントとして、我々を呼んで頂ければいつでも(土・日なら)ミニコンサートしたい。
- ・市民法務に関する困りごと、悩み事を無料で気軽に相談できる場所としての役割はますます増加すると考える。
- ・各市民団体に対する個々のコンサルティングサポートなどがあるとよい。

#### 【地域や社会の課題について】

- ・海外の幼児教育施設(特に補習校)は困難点が多く、もっと支援が必要。一般人、企業の協力が必要なので、人と組織の結びつきを支援していただきたい。
- ・行政→市内に聞こえにくい人が数多くいることを知ってください。(障害者手帳がない人です)老人ホームにも聞こえにくい人が多いことを知ってください。どうか弱い市民のために支援してください。(テレビを友達に家の中に引きこもっている市民が多いらしいです)補聴器や補助具(聞きやすくするもの)を買いやすくしてくださいとありがたい。
- ・家にひきこもりがちな生活にならない地域の方々のふれあいを大切にする施策に賛成。これからも安心して楽しく生活できるまちづくりを期待。
- ・24時間相談出来る場を作ってほしい。精神障がい者の偏見をなくすよう学校教育などに力を入れてほしいです。精神を病んでいる人が増えているので、早期発見、早期治療のためにも学校教育に力を入れていただきたい。他の障がい者と同様な福祉手当、割引など希望。

#### 【市民活動支援センター・ランチについて】

- ・調布市は市民活動を幅広く応援するいい活動をしていると思う。これを縮小させないで下さい。
- ・あくろすはとても重要な拠点。実際に「まちのえんがわ」だと思う。まだ、その「えんがわ」に腰を掛けてみようと思う人が少ないのか。「まち活フェスタ」には、当該団体の出番があり、にわかに関心が高まっている。「まち活フェスタ」にも期待しているので、よろしくをお願いしたい。また、出前講座も計画中ですので、その節はよろしくをお願いしたい。
- ・旧来「えんがわ」は庭先からげたばきで訪れるもの。そこにはその家の人が入り込んで、エプロン姿で気取らずに対応してくれた。ちょっと息抜きにお茶飲みながら世間話をのんびり楽しんだスポット。今、支援センター側にその家の住人役にあたる人はいるのだろうか。用事がなければ行かない場所になっていないだろうか。受け手がいる「えんがわ」が求められているような気がする。そのほっとできる雰囲気づくりを作っていくのが「まちのえんがわ」に求められる課題ではないだろうか。
- ・地図をテーマに活動する様々な団体が一堂に会する企画は同じ興味を持つ仲間づくりのきっかけとして、とても良かったと思う。今後も継続してほしい。
- ・私たちの活動はセンターの協力がなければ生まれなかった。今後とも積極的に活動したい。
- ・センターのおかげで我々の団体があるといっても過言ではない。今後ともよろしくをお願いしたい。
- ・市民活動支援センター企画の講座などにも参加させていただき、活動について学び考え進めてきた。6年目に悲願の専用スペースを持つことができたこと、活動内容を広げられたこと、将来の団体像をイメージできるようになったきっかけも、センターの方の個別にに応じて下さった相談からだった。センターは身近な存在。課題山積であるが、目的に向かって継続活動していくので、今後とも宜しくをお願いしたい。
- ・西部コーナーには、毎年お世話になっている。今後も協力して活動し、子どもたちの健全な成長を支援していきたい。

#### 【交流の機会創出について】

- ・ボランティアや利用者同士の生の情報交換、同世代の交流の機会
- ・「高齢者福祉」、「障がい者支援」、「児童・教育」等の交流会開催提案。
- ・毎月〇日は交流会として続けられたらどうか。都合をつけて参加する人もいます。印刷より心の交流ではないか。活動があって印刷のえんがわも生きるのではないか。
- ・商店街の一角に集い、くつろげる場＝「えんがわコーナー」設置提案
- ・「人と人とが集い交流する」はステキなコンセプト。「開かれている」という実感があるので、利用しやすくしてほしい。これからも身近で地域に開かれた場であってほしい。

#### 【市民協働について】

- ・大学などアカデミックな研究機関とまちづくり、地域活性の長期的なプロジェクトを協働で行ってみたい。
- ・世田谷区ボランティアセンターのように市民団体と行政機関との調整役を果たしたり、ファシリテーターやリーダー養成を図り、市民団体の自立支援や能力向上を支援してもらいたい。
- ・市民が暮らしやすいまちになるよう住民と行政との連携が大切

#### 【市民活動及び市民活動団体・センターに関する情報発信について】

- ・市内の団体情報、活動情報、助成情報の代表的媒体として期待している。
- ・多様な活動が市内で展開されていることをもっと広報すべき。「市民活動」は「誰でも貢献できる機会」であることを啓発し、きめ細やかな支援、開かれた協働体制の促進を望む。
- ・（センターが）どのようなことを相談できてどのようなことを支援していただけるのかわかりにくいと思う。
- ・ホームページを拝見したが、まだイメージが出来上がらない。
- ・市民活動支援センターの存在そのものを、多くの市民が認識していないと思う。地道な広報がもっと必要。

#### 【市民活動団体の活動資金について】

- ・ボランティア活動費の使途についてボランティアの飲食費を考慮
- ・高齢者施設等にボランティアとして出向くことがかなりありますが、私共の希望としては交通費程度の報酬があればとても有難い。（雨の日など駅から遠い場合はタクシーを利用もする事もある為）
- ・当団体への助成金の復活を期待
- ・助成金等に関して、もう少し規制を緩めてほしい。

#### 【センターの活動スペースについて】

- ・朝から夜まで利用でき、大変便利です。無料で使える広いスペースもあり、ミーティングもしやすく助かる。
- ・あくろすは、すぐその場で集まって話ができるたまり場的なスペースがあり、とてもいい。これからも使用者がモラルを守りながら、このまま使いつづけられるといい。何よりスペースがあることがすばらしい。

#### 【その他行政サービス等について】

- ・法人税減税や鬼太郎キャラクターの活用
- ・市民が活動する場の提供とIT時代に合わせて市の施設内ではどこでもWIFIが無料で利用できるようにしてほしい。
- ・自治会では都営の集会所を利用していますが、高齢者の方、足の不自由な方もいます。集会所が一番近いので利用していますが、座るようになって椅子も2-3脚ありますが、椅子と机があるのが希望
- ・直接行けるミニバス等があれば、利用が増えるのではないのでしょうか。

#### 【調査事業について】

・法人格を持つ団体と持たない団体を同一にし、全く同じ質問を繰り返すのは、調査を知らない者の企画であり、この結果をどのように使用するつもりなのであろうか。今後は過去の質問紙の寄せ集めや自分たちの聴きたい箇所だけを意識した質問紙を作ることなく、専門家の意見を聞き入れて作成してほしい。

#### IV 市民活動支援センターの機能強化に向けて

「自立した市民社会の創造」の実現に向け、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら市民の主体的・公益的な活動を支援していくには、これからどのような機能を強化していく必要があるか。今回の調査結果を踏まえ、当センターが取り組むべき課題等を整理したい。

##### ■活動の満足度向上に向けて

問1-3の設問について、3年前と比べ「高まっている」と回答した団体が全体の約半数となっている。これらの96団体のうち、3分の1以上の団体がえんがわファンド・NPO入門講座・相談事業・えんがわフェスタなどの当センター・ランチ事業でのつながりを有する。一方、つながりのない団体も多く存在する。今回の調査をきっかけに今後個別にアプローチを行い、各団体との関係づくりや相互理解を深め、さらなる満足度向上に向けて中間支援組織として何をなすべきかを掘り下げていくことが求められる。

##### ■活動年数が長期化する団体への支援

問3の回答で活動年数10年以上の団体が回答者総数の約半数にのぼる。3年前との活動への満足度の比較で「低くなっている」と回答した団体15団体のうち、半数以上が活動年数10年以上と回答している。会員数や活動資金の減少傾向もみられている。

##### ■団体のボランティアニーズ

回答者総数の44%が「ボランティアを必要としている」と回答。分野別には「保健・医療・福祉」が最も高いが、多くの分野にまたがっている。「ボランティアを必要としている」と回答した団体の半数以上が現在「募集している」と回答していることから当センターとしてボランティア募集情報発信や市民が参加しやすいプログラムづくり、コーディネート機能を高めることが求められる。

##### ■活動資金不足の解決に向けて

問12-2 活動資金の充足度の設問について、全体の約3分の1の団体が「不足している」と回答している。「足りている」と回答している団体とほぼ同数の結果となっている。「どちらともいえない」との回答も約3割あることから、団体のファンドレイジングを支援する取組も当センターに求められている。

##### ■多様なパートナーとの協働の推進に向けて

問14 協働の経験に関する設問で協働の経験「あり」の回答が53%と平成19年度の調査(64%)と比較して割合が減少している。前回と今回の調査対象団体数を始めとした諸条件の違いを勘案する必要があるが、協働による地域課題の解決に向けた取組が広がるよう、当センターには地域課題に敏感に即応する動きが求められる。

問27の自由記述での意見の中にも他地域の事例等も含め、協働に関する提案が寄せられている。交流・ネットワーク構築、協働の場づくりなど当センター中長期運営方針(ビジョン)に掲げられている「横のつながり」をいかに形にしていくかセンターとしての今後のアクションが求められている。

##### ■当センター・ランチが力をいれるべき機能

問20の設問で「コーディネート」が最も高い結果となった。次いで「普及啓発」「情報」「拠点・設備」と続いている。普及啓発の順位が前回の調査との比較で上がっていることから、具体的な取組を進めていくことが求

められている。平成27年3月に実施した「市民活動に関するアンケート調査【個人編】」において、センターやランチ機能を「よくわからない」市民が多く広報の必要性を再確認したが、今回の【団体編】の結果からは、センターを「よくわからない」と回答している団体は188団体中6団体にとどまり、団体への認知度は高まっている。一方、ランチ機能は「知っている」と回答した団体は約3割程度に留まっている。平成27年度に「伝えるコツ」セミナーを開催し、団体の広報力アップに向けての支援を行ったが、センター・ランチ自らも理解やつながりが深まるよう広報に力を入れる必要がある。

#### ■アウトリーチ、団体の組織基盤強化に向けた支援体制の充実に向けて

問1-2、問15での各団体の目的や将来のありたい姿に関する回答から、各団体が思いをもって社会や地域のさまざまな課題解決に向けて取り組む様子が垣間見られる。また、問16の回答からは各団体の運営に関する諸課題が散見されている。問21・23・26では多様な市民活動を展開する団体への支援として、当センターに期待される事業アイデアや意見が寄せられている。広報、資金調達、人材発掘など組織基盤強化に向けた取組を深化させていくことが期待されている。各団体の活動現場への訪問による状況把握や伴走型支援といった地域に向いて支援を展開させていくアクションへの期待も垣間見られる。また、市民のもつ力を最大限生かせるよう協働のコーディネート、場づくりへの期待も寄せられている。これまでも組織基盤強化に向けて各種講座の開催や個別相談等の事業を実施しているが、今後は当センタースタッフのスキルアップを始めとして、アウトリーチを推進するための体制づくりを進めていくこと、多様な市民、主体をつなぎ、力を合わせて課題解決のアクションを起こす動きも期待されている。

## V おわりに

今回の調査（団体編）を行ったことから、調布市内には、こんなにも多種多様な団体が、調布というまちで様々な課題解決に向けて活動されていることを改めて確認できたと思います。しかし、それぞれの団体が活動を継続するに当たり、物理的、経済的、人的、情報発信など多くの課題に直面していることも見えてきました。

当センターでは、各団体の抱える課題の解決に向けての支援を進めていくとともに、人と人、団体と団体、団体と企業、団体と行政などのつながりをより一層深めていけるような取り組みを進めていく必要があるとも感じられました。

私どものセンターがこの国領の地に開設されて、12年目を迎えています。さらに調布市社会福祉協議会が調布市総合福祉センター内に、ボランティアセンターを開設し、調布市内各所にボランティアコーナー（現在は市民活動支援センターのランチ）の運営を行ってきた時期を含めると30年以上の年月が経過しています。

その年月が経過してきた中でも、まだまだ当センターの知名度は十分とは言えず、広く市民の皆様に認知していただけるようさらなる努力の積み重ねが必要であることを痛感いたしました。

今回の調査の中でセンターへのお褒めのお言葉もいただいておりますが、その言葉を糧に皆様から頂いたセンター及びコーナーの様々な課題解決と市内各種団体のさらなる発展に向けて、センターが何をなすべきかを今後策定される『市民活動支援センター中長期運営方針（ビジョン）』に盛り込み、より一層市民や各種団体に寄り添ったセンター運営となるよう職員一同努力してまいります。

結びに、今回の調査にお忙しい中ご協力を賜りました多くの団体の皆様に、この場をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今後も、当センターの運営に忌憚のない様々なご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願いいたします。

市民活動支援センター センター長 高木 直